



新しい学校づくりに関する 児童生徒ワークショップを開催

～ 新しい長沼の学校をみんなの意見で ～



8月17日、新しい学校づくりに関する児童生徒ワークショップを役場で開催しました。

「新しい学校にどんな施設や設備がほしいか」をテーマに、長沼小学校の児童会書記局4名、長沼中学校の生徒会書記局2名、長沼高校の代表生徒3名が意見を出し合い、最後に全体で共有しました。

はじめに、間嶋教育長から長沼町の歴史、学校統合の歴史、小中一貫教育・義務教育学校を進める理由、先進事例、新しい時代の学校モデル(文部科学省提供)について話を聞きました。その後、各校のグループに分かれて7月に回収したアンケート結果をもとに、令和9年4月開校予定の長沼町施設一体型義務教育学校校舎で、欲しいもの・期待するものベスト5を協議し模造紙に記入して、発表しました。

◆小学生の発表

1番は勉強に集中するためにエアコンと暖房、2番はカバンや習字セットなどを入れる収納スペース、3番は給食や休憩時間に混んで授業に遅れないようにトイレに手洗い場と多目的トイレを増やすこと、4番は広い廊下とのんびりできるスペース、5番に安全で広い体育館を順番に発表してくれました。

◆中学生の発表

小学校と同じくエアコンとバリアフリーにも対応できるきれいなトイレのほか、1人ひとりの学習の

質を上げるために難易度ごとにグループ分けをして授業をすることや、1つの目的ではなく複数の目的で活用できる広い階段や廊下、スムーズな給食配膳や車椅子の方のためのエレベーター、授業以外にも他学年と交流ができる場所が挙げられました。

◆高校生の発表

アンケート結果でも上位だったエアコンのほか、のんびりできるフリースペース、避難所としての機能も兼ね備えたバリアフリーの設備、給食の配膳を少しでも楽になるようにエレベーターが挙げられました。また施設ではなく【考え方】として自分で時間割を設定したり自由な活動ができるなど、自分の行動を選択する力をつけたいと話してくれました。

各校の発表を聞いて、中学2年生の長谷川喜一さんは「みんなのアイデアはおもしろかったし勉強になった。小中高でそれぞれ年齢も違うなかで、考え方を交流していくのは必要だと思った」、中学3年生の清水夏綺さんは「本町以外の色々な学校の事例を知ることができた」、高校1年生の菅原優太さんは「あまりこのような機会はないのでとてもよかった」と振り返りました。

最後に、間嶋教育長は「大人になっても自分で生きていくための力を得るために通う学校づくりに、今回出てきた意見を少しでも役立てていきたい」と締めくくりました。



タンチョウ子ども交流ツアー in 鶴居村を開催

8月8日と9日の2日間、第6回目となる鶴居村との交流イベント「タンチョウ子ども交流ツアー in 鶴居村」を開催しました。

本町からは小中学生17名が鶴居村を訪れ、鶴居村の子どもたちとタンチョウの巣の観察や釧路湿原の探索を行いました。子どもたちは2日間で交流を深め、学習の成果や自分たちの町・村のすごいところを立派に発表しました。今月8日と9日には、鶴居村の子どもたちが本町を訪れ、交流を行います。



全道一斉旗の波運動を開催

8月18日、道の駅マオイの丘公園で「全道一斉旗の波運動」が開催されました。北海道では重大交通事故の発生に歯止めがかからず死亡者が多数発生していることから、北海道警察が全道一斉に交通事故発生防止の取組みとして行ったものです。

栗山警察署職員や交通安全協会、交通安全指導員、女性交通安全クラブの会員など計24名が交通安全標語の書かれた旗を持って国道274号線に立ち、通行する車に安全運転を呼びかけました。

長沼町戦没者追悼式を開催

8月20日、長沼町戦没者追悼式を、りふれで開催しました。式には遺族をはじめ、各団体の代表者など約100名が参列し、本町出身の戦没者のご冥福を祈りました。

齋藤町長は「今日の平和と繁栄は、戦禍の中で亡くなられた多くの方々の尊い犠牲の上に築かれているものであるという事実を決して忘れないようにし、戦没者の御霊がいつまでも安らかでありますよう、心からご冥福をお祈り申し上げます。」と式辞を述べ、桂遺族会長をはじめとする参列者代表が追悼の辞を述べました。

式の最後には参列者代表と遺族らが献花を行い、平和への誓いを新たにしました。



高齢者叙勲(旭日単光章)を受章 松村隆義さん

9月5日、叙勲伝達式が役場で行われ、高齢者叙勲(旭日単光章)を受章された松村隆義さん(28区)へ勲章などが伝達されました。

松村さんは平成3年3月に町議会議員に当選以来、平成15年3月まで連続3期12年の長きにわたり在職し、平成11年3月からは副議長として議会の活性化を図り、より開かれた議会を目指すとともに、産業振興と保健福祉の向上に尽力し、町勢伸展の原動力として豊富な経験と卓抜なる識見をもって地方自治確立に寄与された功績が認められました。

